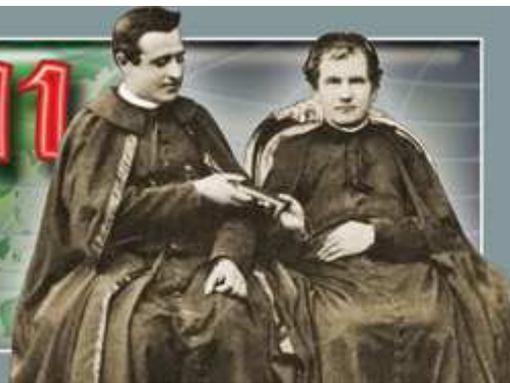


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.42 - 2012年6月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオ会とサレジオ・ミッションの友人の皆さん、

今回は、偉大な宣教師、ブラジル-マナウス管区の管区長を務めたベンジャミン・モランド神父(1943-2012)の生涯とその思い出についてお話ししたいと思います。モランド神父は48年間、ブラジルのアマゾン地方で暮らしました。今年、宣教顧問としてマナウス管区を訪問した私に同行し、リオ・ネグロのアマゾン熱帯雨林にある5つの支部を2週間かけて回った後、ベンジャミン神父様は5月5日、突然、塞栓症により亡くなりました。

亡くなって数週間たったころ、ベンジャミン神父様の生涯のメッセージについて黙想していたときです。神父様の死によって私たちに残されたものが何であるか、気づきました。神父様の生涯を言い表すキーワードを見つけました。“インカルチュレーション”(文化受容)です。

実際、ヤウアレテの人々のためのミッションは、神父様がいちばん大切にしていたことでした。1994年にベンジャミン神父様は先住民族出身の召命のため、志願院を創設しました。現在、この地域には地元出身の4人の司祭と養成中の多くの若いサレジオ会員がいます。

ベンジャミン神父様の親しい友人、サン・ガブリエル・ダ・カチョエイラ・ブラジル・アマゾナスの司教であるドン・エドソン・ダミアンは、今年5月7日、マナウスで行われた葬儀で次のように語りました。

「ベンジャミン神父様は、生涯の69年のうち48年をアマゾンの宣教地に捧げました。アマゾンの宣教管区で自分に任さ



ベンジャミン・モランド神父とヴァツラフ・クレメンテ神父

偉大な宣教師のあかし、夢

れた一つひとつの仕事に、すべてを与え尽くしました。

その中でも特に、ヤウアレテのリオ・ネグロの教会を思い出します。そこでベンジャミン神父様は最大の挑戦を前にし、人生で最も幸福な、最も密度の濃い年月を体験されました。姉妹なる死が不意に訪れたため、回想録を書く時間はありませんでした。しかし神父様は、心と足で書かれた遺言を残されました。聖アウグスチヌスは言っています『私たちの足を動かすのは、私たちの思いである』と。

ベンジャミン神父様の最後の仕事は、サレジオ会の宣教顧問ヴァツラフ・クレメンテ神父様に同行することでした。二人はリオ・ネグロの広大なアマゾンに散在する5つの拠点を訪ねました。ヤウアレテのミッションは、最も遠い奥地にあります。私は自分の司牧訪問を、先住民族ウィークの一週間の祝祭に合わせて行いました。その祝祭で、ベンジャミン神父様は生涯最後となるミサを司式されました。

ヴァツラフ神父様と一緒にマナウスに帰る前日、サン・ガブリエルに来られたとき、神父様が私たちのもとを旅立つたった4日前でしたが、私はベンジャミン神父様と話しました。神父様は、ヤウアレテの先住民族の人たちがいかに生き生きと活発であるか、熱意を込めて話してくださいました。共同体の運営、伝統の踊りの美しさ、信徒リーダーの働き、こんど叙階されるサレジオ会員のこと。神父様は、リオ・ネグロの宣教拠点を増やすつもりだと打ち明けてくれました。最後にこう言われました『もっと多くの召命を得て、地元出身の宣教師がこの地域にとどまるとき、はじめて文化受容された福音宣教が実現する』と。」

私たちはサレジオ会員を失いましたが、天国の取りなし手を得ました。

サレジオ会宣教師の聖性は、インカルチュレーション道によって受け継がれていきます!

Vatroslav Clement
宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

Bangladesh でドン・ボスコのカルスマを生き、深め、伝えたい



宣 教地との最初の出会いは、クラクフの神学院の宣教グループに入ったときでした。最初の会合で、私はサレジオ会の宣教活動にすぐに心を奪われました。叙階後、管区長は私をスヴィエトクウォヴィツェのサレジオの学校に派遣しました。学校でのいろいろな務めのほか、アクワバ宣教ボランティアのアニメーターにもなりました。このグループは、SWMクラクフのボランティア部門です。ガーナ(アフリカ)の子どもたちのための“休日キャンプ”を企画する若者たちのグループに関わりました。この決定的な体験のおかげで、宣教師になりたいという望みを深めることができました。大きな喜びを自分のうちに感じ、生きました。スラムの子どもたちの笑顔は、多くのことにはるかに勝る価値があることを知りました。この世界は、福音を告げ、キリストをあかしする人々を本当に必要としていることに気づきました。この体験から、宣教師として志願することを決意するようになりました。総長は私を、Bangladesh で新たに始まったサレジオ会の拠点に派遣しました。

2010年、Bangladesh へ出発する前、ローマとトリノで行われた新宣教師養成コースに参加する機会を得ました。そのひと月のコースの間、友情あふれる雰囲気の中、ほかの宣教師たちと出会い講話や体験に耳を傾けられたことは、宣教師としてやっていく術(すべ)を学ぶ助けになりました。しかし、そのコースで学んだことの真価を本当に理解したのは、Bangladesh へ来てからでした。

サレジオ会司祭として私を呼んでくださったことを、神に深く感謝しています。今日、予防教育法によって、私たちサレジオ会員を通してドン・ボスコは働き続けています。大多数の人がイスラム教徒である Bangladesh の宣教師として、サレジオ会が入ってまだ6年しかたっていない国で、ドン・ボスコのこの貴重な遺産を生き、深め、伝えるために努めることができ、自分は幸せだと思います。予防教育法を日々の宣教活動の中で、具体的には寮の少年たち、オラトリオの子どもたち、そして新たに開設したロクヒクルの宣教拠点で人々との関わりの中で、実践したいと思っています。

Bangladesh は世界の最貧国の一つで、多くの問題を抱えています。私はこの国とこの人々が大好きです。地元の人々との出会いを、私は毎日楽しみにしています。



Bangladesh は世界の最貧国の一つで、多くの問題を抱えています。私はこの国とこの人々が大好きです。地元の人々との出会いを、私は毎日楽しみにしています。

ポーランド出身 Bangladesh の宣教師 パヴェル・コチオレク



2012年6月15日-司祭たちの成聖のために祈る 世界祈りの日



サレジオ会の宣教の意向

ポーランドのキリスト者の若者たちのために

ポーランドの若い信徒たちが、日々の生活をイエスのみ心に明け渡しながらか、キリスト者としての生き方をヨーロッパにおいてあかしする真のあかし人として成長できますように。

ポーランド4管区の若々しい活力は、ヨーロッパ大陸における新たな福音宣教のために大きな力源になっています。ポーランドの会員たちが、若者たちと共に歩み、今日の多文化・多宗教の社会にあって、深い積極的な信仰を育むために、若者たちを助けることができるよう祈りましょう。

